

戦略プロジェクト評価シート (平成 27 年度事中評価)

戦略プロジェクト名	いわて国体おもてなしプロジェクト		
主管部等名	市民部	部コード	040000
戦略プロジェクト統括マネージャー	市民部長 細川 恒	内線番号	2 1 0 0

Step 1 戦略プロジェクトの全体像

1 戦略プロジェクトの概要等 (構成事業は別紙ロジックモデルシートのとおり)

戦略プロジェクトへの設定理由	<p>人口減少や少子高齢化社会の進行に伴い医療費や介護費用の増大など、様々な課題が顕在化してきている。これらの諸問題に対応するため、市民が健康でいきいきと暮らすための取組や交流人口の増加に取り組むこととしています。</p> <p>1 市民総参加によって国体を成功へと導くと同時に、国体開催による来盛者数の増加や盛岡への注目度の高まりを好機と捉え、盛岡の魅力を全国に発信します。</p> <p>2 国体の成功に向けた取組による財産を継承し、次の事項に取り組みます。</p> <p>(1) 市民のスポーツへの関心の向上を図り、スポーツを通じた健康作りを進めます。</p> <p>(2) スポーツツーリズムを推進することにより盛岡及び盛岡広域圏の魅力を発信し、交流人口の増加を促進します。</p>
戦略プロジェクトの取組内容	<p>「希望郷いわて国体・希望郷いわて大会」に来盛する方々を“おもてなしの心”で温かく迎え、盛岡の魅力を全国に発信するとともに、すべての市民がスポーツに親しみ、スポーツを通じて健康でいきいきと暮らすことができるまちづくりを推進します。</p> <p>また、ボランティアや市民協働による組織等が一体となって「希望郷いわて国体・希望郷いわて大会」を成功へと導きます。</p>
重点取組期間	平成 27 年度 ～ 平成 28 年度
期待する効果	市民総参加により、大会を成功させ、盛岡の魅力あふれた元気なまちになる
対象 (誰(何)を対象として行うのか)	すべての市民と来盛者
意図 (対象をどのようにしたいのか)	<p>すべての市民が、国体成功への取組を通じてスポーツの魅力を再認識し、スポーツを通じて健康で豊かな生活を楽しむことができる。</p> <p>また、選手、役員をはじめとする来盛者が、国体を契機に盛岡の魅力に触れ、盛岡ファンとなる。</p>
目標指標	ボランティア登録者数2,000人 (28年4月1日現在)

Step 2 成果指標の推移

(↑：数値を上げていくことを目標とする指標，↓：数値を下げていくことを目標とする指標)

指標項目	単位	25年度 実績	26年度 実績	27年度 実績 (評価 時点)	28年度 目標	29年度 実績	29年度 目標値
A ボランティア登録者数 (↑)	人	—	148	443	2,000		
B まちづくり評価アンケート調査「週1回以上スポーツをしている」と答えた市民の割合 (↑)	%	31.1	28.8	—	47		(50)
C 地域ブランド調査「魅力度における盛岡市の順位」 (↑)	位	74	58	—	54		(53)

Step 3 戦略プロジェクトの進捗状況

本プロジェクトは、「大会の成功及びその財産の継承」を目的としている。

また、平成34年度までを計画期間とする盛岡市スポーツ推進計画の基本的施策は、(1) スポーツをする環境づくり、(2) スポーツを支える環境づくり及び(3) 2016「希望郷いわて国体・いわて大会」への取組としている。

したがって、本プロジェクトは、大会の成功に向けた取組とともに、大会開催によりハード、ソフト両面でのスポーツ環境の向上が図られ、「する」環境づくり、「支える」環境づくりを進め、その財産を次世代に継承していくという使命がある。

このうち、大会の成功に向けた具体的な取組については、

- ア 国体会場となる施設の整備・改修事業の実施
- イ ボランティア登録者の募集
- ウ 盛岡の食材プロモーション事業における生産者と飲食関係業者とのマッチングや、国体のリハーサル大会会場における「ふるまい」の実施
- エ 盛岡駅東口の自動車交通円滑化のためタクシープール側の駅前広場レイアウト改善
- オ バリアフリー化等を目指した盛岡駅東口及び盛岡駅西口バス乗り場へのエレベーターの設置

などが挙げられるが、ボランティア登録者の募集以外は、概ね順調に進められており、大会開催までに事業が完了する見込みとなっている。

ボランティア登録者募集については、達成率は約22%と低いが、リハーサル大会の開催などをきっかけに市民の関心も徐々に高まっており、2,000人の目標は達成可能と捉えている。

なお、スポーツ・パル制度の創設・拡大や盛岡広域圏でのスポーツツーリズム推進については、本プロジェクトと並行して取り組むとともに、国体終了後速やかにスポーツ推進計画に掲げる目標達成に向けた取組に移行できるよう準備を進めている。

Step 4 市民ニーズの把握

本プロジェクトについては、「広げよう感動。伝えよう感謝」をスローガンとする全県的な取組であり、国体成功に向けた市民ニーズの把握については、開催決定以降、特に行っていない。

しかし、国体開催による財産の継承については、スポーツ推進計画の目標達成に向けた取組の中で、十分に市民ニーズを把握しながら進めていく必要がある。

また、国体ボランティア登録者を中核としたスポーツ・パル制度を進める中で、市民ニーズの把握が容易になっていくものと期待している。

Step 5 成果・問題点の把握と改革改善案

1 成果の把握と要因及び課題の分析

(1) ロジックモデルの中で特に成果をあげた点とその要因

本プロジェクトの目的は、大会の成功及びその財産の継承であり、現段階での記載すべき成果はないが、現在進めている取組についての成果としては、次のものが挙げられる。

ア 市民意識の高揚に向けた取組

アイスアリーナで希望郷いわて国体冬季大会200日前・本大会444日前記念イベントを開催し、約1,300人の参加者を得た。多くの参加者を得た要因としては、イベント開催を広く周知できたこと及び会場内でのミニライブの開催、ゲーム感覚で体験できる競技及びスタンプラリーの実施、会場外でのフリーマーケットの開催等々魅力あるコンテンツを揃えることができたためと考えている。

イ 国体会場となる施設の整備・改修

長年の懸案であった太田テニスコートやアイスアリーナの整備・改修、アイスリンクの新設などが、国体開催を契機に推進されたことについて、リハーサル大会参加者や本市競技団体から高い評価を得た。

ウ リハーサル大会を踏まえた課題の整理と解決策の検討

競技、競技会場ごとに課題は異なるが、リハーサル大会開催により課題が明確になり、行政、競技団体それぞれ課題の整理と解決策の検討を行っている。

(2) 取り組むべき課題

ア 市民意識の高揚とボランティア登録者の増加

イ 各主体の連携と“おもてなしの心”の共有

2 問題点の把握と原因及び課題の分析

(1) ロジックモデルの中で特に改善を急ぐべき点・留意すべき点とその原因・経緯

ア 市民意識の高揚とボランティア登録者の増加

市民の関心の低さとボランティア登録者数の伸び悩みについては、昭和45年国体との違いとして、高度経済成長期にあってインフラ整備が図られたこと、本市が主会場であったことが挙げられ、一方で今回は市民の関心が高まりにくいという背景がある。

イ 財産継承に向けたスポーツツーリズム推進体制の構築

国体開催直後に、盛岡広域圏8市町で構成する（仮称）スポーツツーリズム推進協議会を設置する方向で準備を進めおり、総論では賛同を得ている。

一方で、各市町の自主性、自立性を尊重しながら進める必要があり、意思決定方法や費用負担についての調整が必要となっている。

(2) 取り組むべき課題

ア 市民意識の高揚とボランティア登録者の増加

イ 財産継承に向けたスポーツツーリズム推進体制の構築

3 改革改善案（上記1及び2を踏まえた改革改善案）

(1) 市民意識の高揚とボランティア登録者の増加

会期が近づくとともに、様々な広報・啓発の取組によって、市民意識は徐々に高まりつつある。また、ボランティア登録者がリハーサル大会など実際に競技に関わる経験を通じて、口コミでの登録者も増えてきている。

今後は、大学、専門学校、協賛企業への呼びかけなど広報・啓発の取組を強化するとともに、ボランティア参加者の意見や要望などを取り入れながら、参加する楽しさ、達成感などの発信に力を入れる。

(2) 各主体の連携と“おもてなしの心”の共有

県、市、競技団体、企業、地域団体、ボランティア参加者など、各主体間の連携が十分とはいえないことから、ソフト・ハード両面において市がリーダーシップをとりながら、食材プロモーション事業などにおける情報共有の場づくりに努め、“おもてなしの心”を共有する。

(3) 財産継承に向けたスポーツツーリズム推進体制の構築

盛岡広域圏を構成する本市以外の7市町は、国体担当部署とスポーツ施策推進部署が同一であり、国体が終了するまでは具体的な協議を重ねるゆとりがない。

したがって、国体の財産継承を淀みなく進めるために、情報共有に努めながらも当面は、人的、財政的な負担を本市が負うとともに、2020東京オリンピック事前キャンプ地誘致活動等を通じて、圏域の一体感の醸成に努める。

Step 6 外部評価

1 行政評価外部評価委員会の意見（評価内容の妥当性に対する評価）

(1) 戦略プロジェクトの設計について

ア 戦略プロジェクト全体の設計について

戦略を「おもてなし」にしているというのは大変素晴らしいが、それを基に部局横断的な考え方で各戦術、各施策を考えるべきであり、事業から施策を組み立てるのではなく、施策から事業を考えるロジックを企画の段階において議論されるべき。

イ 目標指標について

(7) 目標指標における目標値の考え方について

ボランティア登録者数を1つの測定指標とした場合に、市民意識の醸成に関しての指標とするのか、人手不足解消に関しての指標とするのかにより政策手段が変わってくることから、明確に整理する必要がある。市民意識の醸成に関する測定指標であれば、盛岡市民が市、県、その他どこであれ、登録した数を目標値とすることについて検討されたい。

(1) 目標指標の再検討について

戦略プロジェクトへの設定理由と目標指標が合っていない。成果指標のB「まちづくり評価アンケート調査「週1回以上スポーツをしている」と答えた市民の割合」を目標指標とするなど、目標指標の再検討を行うべき。

(2) 戦略プロジェクトの展開について

ア 盛岡らしいおもてなしの実践に向けて

盛岡らしいおもてなしの具体のイメージについて掘り下げるとともに、人と人との接点の場でのおもてなしをどう表現していくのかということ及び国体開催を契機として新しい文化をつくるという目標を立てることについて検討されたい。

また、市民意識とは具体的に何を指すのか、市民意識の現状把握、市民意識の醸成に向けての問題点とその原因及び市が求める市民意識の醸成の具体の内容等について、十分に分析、整理及び検討した上で、限られた予算を有効に活用し、政策手段を打つべき。

イ 国体ボランティアについて

(7) ボランティアの募集について

個人の意識に期待するという組み立ては非常にリスクであることから、ボランティア登録者の内訳が個人登録なのか、組織を通じての登録なのかについての分析を行いながら、ボランティアに対するフォローを行うとともに、スポーツ関係等の様々な団体への仕掛けを行うべき。

(1) ボランティアの活用について

ボランティアと行政が一緒になってアイデアを出し合えるような自主性、自発性を生かせる場の創出などボランティアとして登録した人達が活躍できるような取組や、ボランティアの組織化・人材教育の実施について予算の投入を含めて検討されたい。

ウ 情報発信について

広報活動を強化するため、公民館や市内各施設等へのチラシ・パンフレットの配布による情報提供を実施するとともに、チラシ・パンフレットを配布した後のケアについて検討されたい。

エ 国体開催を契機とした取組について

国体開催を契機とした盛岡市独自の具体の活用について十分に検討していくことが重要であり、スポーツツーリズムの推進によるスポーツ合宿誘致等の実現や、長期的なボランティアの育成によるスポーツ関連等の取組などにつなげられたい。

2 委員会の意見に対する市の考え方

(1) 戦略プロジェクトの設計について

ア 戦略プロジェクト全体の設計について

戦略プロジェクトの設計については、これまでも部局横断的な考え方で各戦術、各施策を考えてきたところであり、今後も引き続き同様な考え方に基づき推進してまいります。

また、「スポーツの力が盛岡の未来を創る」を基本方針とした『盛岡市スポーツ推進計画』において、3つの基本的施策の1つとして、『2016「希望郷いわて国体」・「希望郷いわて大会」への取組』を定め取り進めております。

戦略プロジェクトについては、基本的には、当該計画に掲げた具体的な施策に盛り込まれているものを、戦略プロジェクトの策定段階において修正を行うなど必要な内容を加えたものでございます。

これらの施策の進め方につきましては、庁内連携はもちろんのこと、外部委員で構成するスポーツ推進協議会において、多くの建設的なご意見をいただきながら進めております。

イ 目標指標について

(7) 目標指標における目標値の考え方について

ボランティアの登録者数の考え方についてですが、盛岡市実行委員会が行う競技会運営、広報・PR活動を、市と市民が協働で展開することとしていることから、「ボランティアの登録者数」については、何らかの形で国体に参加したいといった市民意識の醸成を測る1つの指標であると考えております。

また、市が開催する競技の運営に実際に携わることで、スポーツへの興味・関心の向上が図られ、本プロジェクトの目的の1つである国体開催を契機としたスポーツ人口の拡大につなげていきたいといった観点も踏まえ、現実に数字を捉えることが可能であるところの「市実行委員会が募集したボランティア登録者数」を目標値としているものです。

(4) 目標指標の再検討について

本プロジェクトは、他のプロジェクトと異なり国体終了年度までとしており、設定理由と目標指標の整合が取れています。

なお、財産の継承の取組は、国体そのものの成功への取組と並行して行っていくものであり、その具体的な成果については、平成29年度以降に開花するものと考えています。

(2) 戦略プロジェクトの展開について

ア 盛岡らしいおもてなしの実践に向けて

具体的な盛岡らしいおもてなしとして、市民による選手・監督等に贈る繭細工・さんさ踊りとふっちストラップの制作、市内小中学生による応援のぼり旗の制作、市民が育成した花のプランターによる会場装飾、盛岡の紹介・案内のためのおもてなし広場の開設、観戦ガイドブックによる盛岡の魅力紹介などを計画しています。

また、市民意識とは、市民一人ひとりが国体開催の意義を理解し、何らかの形で国体に参加する気持ちを持つことであり、具体的な国体の関わり方を示しながら周知PRを行っています。

イ 国体ボランティアについて

(7) ボランティアの募集について

個人の意識に期待するのみならず、個別に学校、企業、団体等を訪問し登録者数の増加に努めており、着実に登録者数が増加しています。

(イ) ボランティアの活用について

ボランティアの活用については、スポーツ推進計画の3つの柱の1つ『2016「希望郷いわて国体」・「希望郷いわて大会」への取組』において、「ボランティア受入体制の整備」の中で位置付けており、ご意見を踏まえて検討してまいります。

なお、スポーツ推進計画の中では、3つの柱の1つ「スポーツを支える環境づくり」の中で、「(仮称)スポーツパル制度の創設を掲げており、国体後は、国体ボランティアの方々をスポーツパル制度に取り込みながら、ボランティアとしてだけでなく、「する」、「支える」人材として活用してまいります。

ウ 情報発信について

公民館や市内各施設等へのチラシ・パンフレットの配布は既に実施しております。また、ホームページやFacebookを活用した情報発信を行っているほか、国体関連イベントを実施する際には必ず報道機関に情報提供し、テレビや新聞で取り上げてもらうこととしております。

エ 国体開催を契機とした取組について

ご指摘のとおりであり、国体開催を一過性のイベントに終わらせることなく、成果や経験を遺産とし、「スポーツの力が盛岡の未来を創る」の基本方針のもとに、スポーツ推進計画の中に各種施策を体系的に位置付けております。今後ご期待に沿えるよう一層努力してまいります。